

平成30年4月12日

聴取結果概要

弁護士 中 川 幸 雄
弁護士 山 本 久 子
弁護士 浅 井 勇 希

当職らは、第48回衆議院議員総選挙等の開票作業において不適正集計がなされた件に関し、平成30年3月17日から4月6日までの間、計29人から聴取を行った。聴取結果の概要は下記のとおりである。

記

1 事前準備等

① もともと市議会議員選挙が予定されており、その準備に追われていたところに、9月28日に衆議院が解散され、市議選、衆議院小選挙区、比例代表、国民審査の4種類の選挙となった。4種類の選挙というのは、平成16年に5町が合併して甲賀市になって以降、初めてのことであった。

② 開票会場の選定

ここ数年は、開票会場としてプララを利用していたが、4種類の開票事務を行うには狭いと思い、ダブル選挙になることが決まってから、別の会場がないか検討した。

開票会場の条件として、開票所の広さが十分であること、十分な駐車場が確保でき、できれば市内各所からのアクセスが良いこと、オンライン体制がとれること、立会人への説明を行う部屋や控え室等を確保できること、照明が暗くないこと等が必要。季節によっては冷暖房も必要。

体育館等いくつかの候補会場を見に行く等したが、適当な施設がなく、結局、これまでから利用していて勝手のわかっているプララを利用することにした。

③ 開票会場のレイアウトや開票事務テキストは、1人で検討し作成。

④ 開票事務テキストは、開票事務従事者にメールで配布されたが、開票会場選定に手間取っていたためか、配布が遅かった。

⑤ 説明会等

前日に、各係の主任らに対し、開票事務の進め方等について説明があった。

当日、開票作業開始前に、各係の主任らから、開票事務従事者らに対し、説明をしているが、駐車場の誘導など他の業務に従事していて、説明の場にいなかった者も多数いる。

当日は台風で大雨・洪水・暴風警報が出ており、台風対応で遅れてきたために説明を聞く事ができなかった職員もいる。

投票事務と開票事務を兼務している者が多く、さらに期日前投票事務に携わっている者もいて、事前に全員を集めて開票事務の説明を行うことが難しい状況だった。

- ⑥ 選管事務は、4名の市職員が中心的に担っていたが、通常業務も行いながらであったため、多忙を極めていた。日中は選挙関係の対応等に追われて他の仕事ができず、残業は避けられなかった。特に、投票日直前は午前2時、3時頃に仕事を終えて帰宅し、早朝から出勤することが続いていた。

2 期日前投票について

投票日当日に大型台風が直撃するという予報が出ていたため、期日前投票最終日は特に混雑していた。

市議選の投票と国政の投票の間にも、数十分待ちの行列ができており、途中で帰ってしまった人もいたと聞いている。

投票所で最初に受付をすると、機械は4種類の選挙全てをやったと入力する。途中で棄権して投票用紙を受け取らずに帰る人がいた場合には、棄権の申し出を受けて入力を修正するが、申し出なく帰られた人がいた場合には反映できていない可能性がある。

3 投開票事務について

(1) 投票箱受領後、開票開始までの保管状況等

- ① 投票箱が投票所から開票会場に届けられると、受付をしてから、比例と国民審査の投票箱を楽屋に、小選挙区の投票箱を図面左側廊下に、市議選の投票箱を右側廊下に並べた（テキストに書かれていた内容とは若干異なっていた）。

床に1～5、6～10…というように投票所の番号を表示し、投票所の番号順に投票箱を並べるようにしていた。

これまでの選挙では、開票所内に投票箱を運び入れていたが、今回は、4種類の選挙で、作業用の台の数も投票箱の数も多かったので、場所がなく、中には置けなかった。

- ② 各投票箱の上に、その箱の鍵が入った封筒を置いていく。
- ③ 解錠前の段階では、すべての箱が並べられていたことを確認している。
- ④ 開票宣言前に、すべての箱の解錠を済ませる。誰がどの箱を扱うかは決まっていなかった。

(2) 投票箱を開く～空箱回収

- ① 21時半に開票宣言がなされると、投票箱を開票台のところに持って行き、

投票箱を開いて、投票用紙を開票台の上に出し、箱が空になっていることを壁沿いに並んでいる立会人全員に見せながら廊下に出て、空箱をレッスン室に運び入れる。

- ② 右廊下から市議選の箱を、左廊下から小選挙区の箱を、同時進行で運ぶ。
- ③ 手の空いている人みんなで箱を運ぶ。取りやすい箱から順に取って運んで行く。数十人が、1人あたり1～6個程度を運んでいる。
列が出来ているので順路はわかる。開票所の図面左下の出入り口を入れてすぐのところと、開票台BCの間に誘導係が1名ずついた。
- ④ 廊下に投票箱が並べられていて、ごった返していた。
- ⑤ レッスン室には、空箱を受け取って奥から置いていく役割をしていた者が6～10名程度いた。
空箱は、奥の隅から順に置いており、地域ごとに分けたりはしていなかった。
- ⑥ 場所がないので、3個程度積み重ねて置いていた。投票箱のふたを外して箱の中に立てているものがほとんどであり、また、箱の大きさもばらばらなので、山積み状態になっていた。
- ⑦ 古い投票箱にはふたを取り外せない物もあるので、ふたを閉めた状態の物もいくつかあったが、立会人に空になっていることの確認を受けているはずなので、レッスン室の中でふたを開けて中を確認することはしていない。
- ⑧ 空箱を渡した後の動きに関する記憶ないし認識は、人それぞれである。
 - ・箱を開けた者は、開票所の左下ドアとレッスン室上側ドアの間の廊下にいる者に空箱を渡し、その者がバケツリレー式にレッスン室内にいる別の者に箱を渡していた。
 - ・箱を開けた者が、レッスン室上側ドアからレッスン室の中に入り、中にいた者に空箱を渡して、入ったドアから廊下に出た。
市議選の次の箱を運ぶ場合は、開票所の中を通過して、右側廊下に取りに行く。
 - ・箱を開けた者が、レッスン室上側ドアからレッスン室の中に入り、中にいた者に空箱を渡した後、レッスン室下側ドアからホワイエに出て、国政の箱を運ぶ者は左側廊下とホワイエの間のドアから左側廊下に入り、市議選の箱を運ぶ者は右側廊下とホワイエの間のドアから右側廊下に入っていた。
- ⑨ 責任者らの認識…1人が1箱ずつ責任を持って最後まで運ぶ。
 - ・実際の状況…大きな投票箱だと、1人で箱の底の票を出すのが難しく、他の箱を運んでいる人と協力し合っていることもあった。

投票箱を運んで票を出す作業をしている最中に、開票台の下に、票が入

ったままの箱が置かれたままになっていて、気付いた人が中の票を出して箱を運んで行ったことがあった。

- ⑩ すべての箱の票を出し終わっていないうちから、開票台の上の票がこぼれ落ちないように衣装ケースに移し替える人や、票をそろえる担当の人たちが、開票台の周りに集まってきて、箱を運ぶ作業がしづらい状況になっていた。

(3) 開票作業中の様子

- ① 残業が続いていた者や、当日朝6時ころから投票事務に従事していた者が開票事務も担当しており、みんなが疲労困憊していた。
- ② 県やマスコミからのプレッシャーがあり、早くしなければならなかった。
- ③ 担当する作業が終わった一部の者は、23時半頃、解散指示を受けて先に帰宅した。

その後、空き箱を保管しているレッスン室に票の入った箱が残っていないか探すように指示された者が、他の者数名に声をかけ、数名で、レッスン室内の箱を確認した。箱は部屋の奥側に山積みになっていたため、確認した箱を手前に移動させながら、順番に見ていっていた。その後、レッスン室にいた者は、別の場所で票が見つかったと思い、探す作業を途中でやめている。

- ④ 各投票所で余った未使用の投票用紙は、開票所で残数確認がなされるが、開票作業中は、特に封緘することもなく投票所ごとに茶封筒に入れて、庶務係の台の後ろの文書保存箱の中にまとめて置いていた。

以前は、未使用の投票用紙はジュラルミンケースに入れて厳重に保管し、選挙終了後に県に返すことになっていたが、今は、市で処分する。

4 翌日以降

翌朝、後片付けに来た職員が、レッスン室の中に、票の入ったままの投票箱があるのを見つけた。ふたは閉まっていたが、鍵はあいていた。

そのことを知った職員らは、選管に報告したり、報告すべきと進言したりしている。

以上